

県立 湯本 高等学校

実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

平成 25 年 7 月 21 日～7 月 30 日までの 10 日間、1・2 年生 24 名がオーストラリアのブリスベンにホームステイしながら、スプリングウッド州立高等学校と交流した。

実施概要について

現地でホームステイをしながら、現地高校にて英語を学んだ。



福島の実況発信や現地におけるエネルギー学習について

「福島の実況発信」については、震災の爪あとが色濃く残る風景や、復興した現状を写した写真を現地の生徒に見せながら、英語でプレゼンテーションをするという取り組みを行った。現地の生徒は、同世代の生徒が実際に甚大な被害が残る中、懸命に生きているという姿に感銘を受けたようで、非常に一生懸命に耳を傾けてくれた。反省点としては、内容的には充実していたものの、プレゼンテーションの技術が未熟で、また、ある程度の長さのある英文を人前で読むという経験自体も不足しており、聞き手に分かりにくい点もあったように思う。こちらも事前学習において、練習をより重ねておく必要があった。

「現地のエネルギー事情学習」については、事前に下調べをした上で、現地のダムを視察し説明を受けた。現在のオーストラリアのエネルギー供給の多くは枯渇性エネルギーに頼っている一方、バイオマスエネルギーの研究が推し進められている等、クリーンエネルギーへの注目が高まっている。生徒たちは興味深く話に聞き入り、日本におけるエネルギー供給にも再度、目を向けて考える良い機会となったようである。反省点としては、「エネルギー事情」といっても幅広いテーマとなっているため、一人一人、あるいはグループ毎により具体的なテーマを設けて学習に取り組んでいれば、より身近な問題として感じられたのではないかと、という点である。

全体としては、非常に充実した研修となり、生徒にとって将来に向けて大きな糧となったと考える。

実施後の反省について

ホームステイをしながら現地の高校に通い、英語での交流を図ったが、生徒たちにとって非常に充実した有意義な研修となった。

反省点として、生徒たちは懸命にコミュニケーションを図ろうとしていたものの、単語や身振りでのやりとりで精一杯である場面も見られた。より事前学習を充実させ、より濃密な関わりを持てるよう工夫していきたい。